

令和3年度FD推進ワークショップに参加して

豊田工業大学  
藤貴夫

2021年8月5日にFD推進ワークショップ(A日程)に参加しました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止でしたが、今年度はオンラインでの開催となりました。全体説明からはじまり、それから6名程度のグループに分かれて、グループ討議の後、模擬授業を行い、最後にグループごとの報告が行われました。

やはり、議論の中心はオンライン講義への対応でした。特に、グループ討議においては、それぞれの先生から、最近行っている講義の形式(完全オンライン、ハイフレックス、オンデマンドなど)や、オンラインでよいところ(意見の集約が容易など)や悪いところ(反応がわかりづらいなど)について議論することができました。

模擬授業は15分で、それぞれの先生方は、オンラインでも学生が講義に集中するように、様々な工夫をされていました。特に効果が高いと思ったのは、その大学でほとんどの学生が目標としている国家試験の問題を講義で取り上げることでした。本学の講義に当てはめるとすれば、過去の大学院入試の問題を講義中に取り上げることが1つと思います。

わたしは、現在担当している「光学」の講義で第1回に行う「光の波長とエネルギー」についての講義を披露しました。事前に、グループの先生方の専門分野については資料が配布されており、理系ではない先生方が聴講者であることはわかっていたつもりですが、つい、比例や三角関数の数式を出してしまい、それがよくなかったことに、講義の最中に気が付きました。たとえ、理系の学生が相手の講義でも、数式の説明はゆっくり進めるべきであることを改めて認識しました。より重要なこととして、オンラインであっても、顔が見えていれば反応を読み取れることがわかりました。少人数の講義であれば、できるだけビデオをオンにさせることが重要と感じました。講義後の意見交換において、今回、新しく作成したkeynoteのスライドの評判がよかったことは収穫でした。波が動くアニメーションは、内容がわからなくても、学生の注意を引く効果はあるということでした。今後は、このようなスライドを中心とした講義にしていきたいと考えています。

わたしは、本学に入職するまで、ほとんど研究所での勤務であったため、学部学生に対する講義の経験はほとんどありませんでした。また、コロナ禍ということで、最初にイメージしていた講義とはかけ離れた形でスタートすることになってしまい、未だ自分で納得できる講義ができていません。今回のワークショップに参加し、様々な分野の先生方と議論し、一般的に適用できる教授法をいくつか学べたと思います。そのことを今後を生かして、学生の自ら学ぶ意欲を向上させるような講義をしていきたいと考えています。